

大分教育事務所訪問②-72 (計 145)

大分市立佐賀関中学校に学ぶ  
 学校経営から学ぶ

全校生徒 26 人の夢の実現を願い、学校の教育目標「自らの夢の実現に向けて 主体的に学び 人間性豊かで 郷土を愛する 心身ともにたくましい生徒の育成」の達成に向けて、以下の3点を重点目標と定め、地域と共に組織的に取り組まれています。

「確かな学力：授業力の向上、個別指導の徹底」

「豊かな心：生徒会活動や地域の素材の活用」

「健康の増進、体力の向上：保護者や関係者と連携による基本的な生活習慣の確立、身体運動の奨励」

特に注目すべきは、学校行事や生徒会活動においては、全生徒に各学年に適した役割を与えて活動させることで、自主性や協調性、規範意識等を養う等、生徒自らが考え、行動するようにしていることです。そのため、本校は小規模校ながら、空手部、ソフトテニス部は大分県で優勝するなど好成績を残しています。さらに、幼小中合同体育大会や文化発表会では集団として素晴らしい力を発揮しています。

今後は、本校が育成を目指す（教科横断的な）資質・能力を、協議の時に話題になった「言語能力」と定めてみてはいかがでしょうか。このような上位目標を決めることで、行事などを企画する際に、目的の共通理解が行われやすくなり、実際の方法や手段は担当者に任せることが出来ます。そのことで、担当者の当事者意識が高まり、それぞれの担当者による協働的な新たなアイデア生まれ、より効果的、効率的な実践へとつながるとが期待されます。参考資料「中学校学習指導要領解説 総則編 pp48—52 2教科等横断的な視点に立った資質・能力 ア 言語能力 授業から学ぶ

1年生数学は全員の生徒を指名することで、常に決断を迫るような指導を学びました。2年社会は、最初は何も見ること無く、これまで学んだことをもとにして自分だけの力で予想させ、その後生徒同士の学び合いでそれぞれの予想の根拠を確認し、最後にタブレットで調べて自分の予想と比べさせることで、思考が深まる流れが見事でした。3年生保健体育は、失敗しても良いような温かな空間をつくっていたので、自分たちで工夫しながら挑戦していました。

今後は指導案を作成する際、「振り返り」を教師が願う具体的なゴールの姿を「生徒を主語」にして表記してみてもいかがでしょうか。教師が考えた「振り返り」と生徒が実際に書いたものとの違いを分析をしたり、「めあて」との連動、評価規準との整合性について互見授業を通して協議したりすることで授業改善が推進されると思われました。



NO.642 2021年12月 大分市立佐賀関中学校

全力で

最初から上手くできる事はない。でも、全力でやるから成長できる。全力でやる友達がいるから、自分も頑張れる。そして、共に成長する。



NO.641 2021年12月 大分市立佐賀関中学校

誠実

まずは一人で問題に向き合う。どこまでは理解でき、どこからがわからないか、素直な気持ちで自分と向き合う。



NO.640 2021年12月 大分市立佐賀関中学校

価値の発見

学び合うことで、相手の良さだけでなく、自分の価値も発見できる。

